

MMA Cycles Report

by Raymond A Merriman

No.271 Feb18 2009

投資日報出版(株)

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-12-11 GRANDE人形町6階

TEL:03-3669-0278 FAX:03-3668-4444

コピー対外配布厳禁

1. 回顧と展望

金融市場がかなり不安定な状態で今年に入った。それは恐らく新政権がいかに経済危機に対処するか不安があるからであろう。どうやら政府の計画は数日毎に変わっているようだ。それは政権が昨年9月～10月の水星逆行期に起こったパニックの時以来のケースである。その時次の通り述べた。“水星逆行期の1月11日～2月1日に立てられた計画は不透明であり、その後大幅に修正される可能性がある”。経済刺激策はどのような方向に進むのか、何をするのか、またどのように持っていくのかまだ充分理解されていない。したがって株式市場は引き続き停滞している。反騰する度に失速し、且つダマシの買いシグナルが続いている。信用市場(クレジットマーケット)もプレッシャーを受けている。何故なら財務省が新規に大量のオークションを発表しているからだ。政府は大量のマネーを作り出す必要がある。他方、金と銀は引き続き上昇を続け、昨年夏以来の最高値に到達している。これは投資家がインフレの再現を恐れているからであり、事実、現在はほぼ0%の金利である。

天体の位相は近い将来の安定を示唆していない。3月6日に金星が6週間に及ぶ逆行期に入る。これは4月17日まで続く。3月8～23日は太陽が土星、天王星、及び冥王星に対してT字スクエアになる(カーディナルクライマックス)。3月10日は満月が土星/天王星のオポジションに位置する。これは9月15日と同様の配置である。9月15日は財務長官のハंक・ポールセンが米国の金融システムが健全であると保障した悪名高いスピーチをした時であり、これを契機に金融危機が始まった。天体の位相から判断すると3月の初旬は9月半ばの時の再現である。したがって新政権が今回は適切な行動を取るか、さもなければ、再び金融パニックが起こり、まぢまぢのシグナルを出すことになる。

金星の逆行期に危険が生じるのはFRBが金利政策を180度転換する傾向があるからだ。現在までのところ金融緩和政策を取っている。しかし、今後金融引き締めを示唆することを発表するかも知れない。それは分からないが、いずれにせよ金星逆行の前後10営業日以内に多くの金融市場でPCのボトムか天井をつける可能性が約80%ある。その後は強力な反転が始まる。したがって、これは絶好のチャンスになるだろう。貴金属のトレーダーも太陽中心で水星が2月19日～3月3日の間、射手座を運行することに留意願いたい。通常この運行の少なくとも3～9日間は貴金属は約65%の確率で強力な反騰を見せる。しかし約20%の確率で相場は急落する。

※ メリマン氏の執筆時は現地時間2月16日(海外マーケット)、2月17日(日経、ドル円、JGB)。

※ 次回のMMAサイクルズレポートは3月27日の発行予定となります。

2. 重要変化日：重要変化日は次の日付の前後3営業日で多くの市場で相場反転が予想される。

2月13～17日 ★★ 3月9日 ★★★ 3月20日 ★

4月3～6日 ★★ 4月24～27日 ★★★ (4月15～5月8日の可能性もある)

3. 米国株価 反騰のきっかけを模索中

現在2月13～17日の重要変化ゾーンに位置しており、ダウ平均平均、及びS&P先物は13週間前のこのPCのスタート時以来の最安値をつけている。もし片方のマーケット(両方ではない)が11月21日の安値を下回れば、異市場間強気ダイバージェンスになり、両市場共引け値が25日移動平均を上回る可能性がある。

2月17日はダウ平均のPC(13～21週)の13週目であり、且つS&P先物のPC(15～23週)の13週目である。ダウ平均は第2MC(5～7週)の7週目でもある。この場合はこのMCボトムは今週末までにつけるはずである。引け値が25日移動平均を上回れば、このケースになる。現在この25日移動平均は8144である。もし、3位相のMCタイプであるとすれば、この反騰は修正高、恐らく3～8営業日に過ぎず、その目標値は8320±181.50である。ダウ平均は下降チャンネルラインの中で下落しており、11月高値と1月高値を結んだラインを上回れば、新PC(新長期サイクルの可能性も)に入っていることを意味する。このチャンネルラインの上値は今週8778前後でスタートする。さらに9088を上回れば、新サイクルに入っていることが確認されるか、あるいは安値を更新しなければ、非常に強気の旧PCが続いていることになる(8週強気ルールになっている可能性がある)。この場合、ダウ平均は上昇して1万台をテストする可能性がある。しかし、過去9ヶ月間に亘り、米国株価はこの種の希望的な可能性にフォローしなかった。これは弱気相場の特徴である。すべての反騰は失速した。下げは弱気相場に於ける反騰よりも常に長く強力である。

それでも長期 50 週、及び4年サイクルのボトムが間もなく到来することを認識する必要がある。4年サイクルボトムは2008年10月～2010年6月の間につけるはずであるから、まだ下げの時間は充分残っている。しかし、11月21日の安値7449は強力な下値支持ゾーンであり、これが1998年、及び2002年の4年サイクルのボトム(7400及び7197)であったことを明確に示している。

この7449の安値は依然として維持されており、相場が9088を上回れば、11月21日は4年サイクルのボトムであったことを示唆する。この場合、相場は当分の間上昇するだろう(恐らく2009年末から2010年まで)。さらに、相場は究極的には23ヶ月移動平均(現在12028で下落中)に到達するだろう。

他方、50週サイクルのボトムは5月9日までにつけるはずである。繰り返すが11月21日の安値がそのボトムであったかも知れない。しかし、それは25日移動平均(今週9165で始まり、毎週150ポイントずつ下降中)を上抜くまでは確認できない。もしこのケースであったとすれば、ダウ平均平均は 10292.50 ± 671.50 まで反騰するだろう。この強気のシナリオには多くの“もしも”がある。

前回述べた通り、現在は弱気相場であり、強気の“もしも”が達成されなければ弱気のパターンであり、相場は数ヶ月に亘り、下落して安値を切り下げるパターンになる。相場が11月21日の安値7449を下回れば、弱気相場が続いていることが確認され、次の下値の目標値は 6872 ± 330 になる。現時点ではトレーダーは8750を上抜かない修正高では売りを狙うのが良いだろう。一旦、8750が上抜かれれば、強気戦略にスイッチするのが良いだろう。

しかし、現時点では私の見方はPCは依然として下落を示しており、今後3～8週間以内にはボトムをつけないだろう。しかし、すべてのトレーダーは3月9日の★★★重要変化日に充分注意する必要がある。もしその時点で安値を形成中であれば、相場は数週間に亘る強力な反騰を開始するだろう。しかし、現在、短縮されたPCボトム形成中の可能性もある(2月13～17日の重要変化時間帯の前後3営業日)。

その場合は次の重要変化日3月9日前後に、新PCの天井に向けて反騰するだろう。どのような戦略を取るかはその時点で考えるのが良いだろう。

米国株価の短期重要変化日 次の日付の前後1営業日以内に2.5%以上の相場反転が予想される。

2月27～28日 ★ (週末であるから金曜日あるいは月曜日) 3月1～2日 ★ 3月5～6日 ★★★
3月7～8日 ★ (週末であるから金曜日あるいは月曜日) 3月16～18日 ★ 3月23日 ★★★
3月24～25日 ★ (高値になる可能性が高い) 3月26～27日 ★

4. 日経平均株価 PCのボトムに向けて下落中

2月16日はPC(13～19週)の16週目である。これは10月18日の数年ぶりの安値6995からカウントしている。11月5日、及び1月7日に9521と9325のダブルトップを形成した後、相場は現在6週間下落して、2月17日には7615に戻った。問題は相場がこのPCのスタート時の安値6995以上を維持されるか否かである。もし維持されればそれはダブルボトムになり強気のチャートパターンになる。

現在、注目すべきことは25日移動平均(7991)である。2週連続引け値がこれを上回れば、PCが既にボトムをつけたことを示す強力なシグナルであり、新PCに入っていることを示す。しかし、相場が6995を下回れば、PC、及び長期サイクルは下降を示していることを意味する。この場合は次の下値の目標値は 4820.50 ± 1155 になる。今後2つの重要変化時間帯が到来する。その内の1つは2月13～16日の前後3営業日である。

これは★★変化時間帯であり、相場は現在この時間帯に向けて下落中である。また、この時間帯はPC(13～19週)のボトムの時間帯の中心でもあるから、間もなくボトムをつけるだろう。これは強気である。特にもし、引け値が9170を上回れば、強気である。このレベルは11月5日と1月7日の下降トレンドラインを結ぶ重要なラインである。しかし、更に重要なのは3月9日前後3営業日の重要変化ゾーンである。これは非常に重要な3月6日の金星の逆行開始日を含む。これは極めて強力な変化ゾーンであるから、PCの天井か、或いはPCボトムと合致するだろう。もし現在PCボトム形成中とすれば、次のPCの天井に向けて2～4週間反騰し、この変化日前後に天井をつけるだろう。しかし相場が2月19日以降も下降トレンドであれば、再び金融パニックの状態になり、相場は数年ぶりの新安値に落ち込み、3月9日前後にボトムをつけるだろう。その鍵を握るのは25日移動平均である。相場がこれを下回っている限りは3月9日に向けての金融パニックの懸念は現実味を帯びる。

長期的には前回のレポートを繰り返す。即ち“3年サイクルのボトムは理想的には2008年12月～2009年12月の間につける。18ヶ月サイクルのボトムは理想的には2009年6～12月につけることになる。現行48週サイクルボトムは理想的には2009年1月2日～4月10日に終了する週にボトムをつける…しかし、6,995を下抜けば、再び、パニック売りが出て、相場を $5,512.96 \pm 1072.64$ まで押し下げる。それは恐らく今後6～12週以内に起こるだろう。この場合は48週サイクルがボトムを打つのみであり、18ヶ月及び3年サイクルは2009年下半期までボトムをつけない”。

要約

トレーダーは現在PC、及び48週サイクルがボトムをつける時期であるから、警戒を要する。一旦、ボトムをつければ、その後、強力な2～5週間以上の反騰をするはずである。

したがってトレーダーはその安値では買いを狙うのが良いだろう。また、3月9日の★★★重要変化ゾーンにも注目する必要がある。相場が10月につけた安値6995に対するダブルボトムをつけるか、或いはそれをやや下回れば、その後2～8週間の反騰を予期して、絶好の買い場になるだろう。その代わりに現在PCボトム形成中であるとすれば、相場は3月9日に向けて反騰し、3月9日前後が次のPCの天井になる可能性がある。この場合はショートするチャンスになるだろう。いずれの方向に行くかはまだサインが出ていない。その時点に到達するまで待つ方針を決めるのが良いだろう。現在はより弱気であるが、重要変化ゾーンであるから、今週、安値から反転する可能性がある。しかし、3月9日は強力な変化ゾーンであるから、相場の方針を決めるのはそれまで待つのが良いだろう。

5. 米ドル/円 PCボトムの時間帯に入る

1月21日(1月23日の重要変化日の2日前)にドル/円は13年ぶりの安値に戻り87.11でダブルボトムをつけた。それは12月17日の安値と同レベルであり、PC(26～40週)ボトムをつけた。したがって、2月16日は新PCの4週目である。もしこの位相が正しいとすれば、PCの天井の目標値は 98.88 ± 2.78 、或いは 99.28 ± 1.44 になる。94.63を上回る前に87.11を下回れば、このPCのスタート時は1月21日ではなく、12月17日ということになる。この場合、ドルは弱気相場が再開しており、5.5年サイクルボトムに向かっていることになり、この下降トレンドは2010～2011年まで続くことになるだろう。

私の見方は1月21日にPCがボトムをつけ、ドルは上記の目標値が満たされるまでは、円に対して続騰すると思う。私はこれは第1MC(9～14週)の中で起こると思う。即ち、それは3月9日前後に起こることを意味する。3月9日は通貨市場にとって極めて重要である。しかしこのケースであり、ドルが3月9日前後に円に対して高値をつければ、トレーダーはドル売りのサインに注目し、ドルをショートするのが良いだろう。その理由は長期サイクルが依然として下降を示しているからだ。

前回次の通り述べた“長期的には相場は依然として、さらに下落する前の休止状態である…しかし16.5年、及び5.5年サイクルは下降を示しており、2009～2011年までは3月17日の安値95.71を下回るまでボトムはつけないと思う…理想的には2010年12月の前後6ヶ月以内に付けるだろう。このボトム目標値は 82.21 ± 4.95 である。それは1995年4月の史上最安値79.70エリアである”。

要約

前回のレポートと同様である。即ち、積極的なトレーダーは87.11以下にストップロスを入れて、3月半ばまでに95.00～102.00までの反騰を予期してロングを維持するのが良いだろう。一旦、この天井に到達すれば、すべてのトレーダーはドルショートか、或いは円買いを狙うのが良いだろう。その理由はドル/円が史上最安値をテストすると予想するからだ。この上値レベルが3月6日の前後10営業日以内に達成されれば、ドル売りのサインである。

6. 日本国債先物(JGB)

2月3日の重要変化日前後にJGBは138.15でPC(15～23週)ボトムをつけた。これは先月のコメントと適合している。即ち、次の通り述べた“その1週間後にJGBは第1ハーフPCの高値140を上抜いて、1月15日に140.15をつけた。この新高値ではストキャスティクスは140.00の時よりも低く、現在は反落している。これは弱気ダイバージェンスである。興味深いことは、JGBはPCの新高値をつけた時に米国の10年ノートは、同様の高値をつけなかったため、これも異市場間弱気ダイバージェンスであった…トレーダーは140.15が上抜かれない限りはショートを狙うのが良いだろう”。

今週は新PC(15～23週)の2週目である。この新PCの天井目標値は 142.85 ± 0.88 である。しかし、140.15～140.16のダブルトップを抜けなければ(9月、及び1月の高値)、弱気になり、既に長期サイクルが天井をつけたことを示唆する。相場が138.15を下回れば、相場は次の17ヶ月サイクルのボトムに向けて下落するとの見方を支持する。このボトムは2009年8月～2010年2月までは到来しない。ジオコスミックスの観点から見ると、2009年5月～7月の木星/海王星のコンジャンクションが出現する。これはインフレの原動力になり、もしこれが実現すれば、商品相場が上昇するか、或いはマネーサプライが増加し、且つ負債が急速に拡大し、世界の財務省は利回りを上げざるを得なくなり、財務証券は下落することになるだろう。

現在金利が極めて低水準であるから、更に利回りを下げる余地はない。木星/海王星は利回りが上昇することを示唆している。更に3月6日～4月17日の金星の逆行期は世界の中央銀行が突然金利に対する政策を変更することを示唆している。しかし、まだ新PCの初期の段階であるから、JGBの目先は上昇トレンドであろう。しかし、もし3月9日前後にPCの天井をつければ、トレーダーはロングは警戒する必要がある。

要約

トレーダーは3月6～9日の重要変化時間帯に注意を集中すべきである。何故ならそれはすべての金利関連マーケットに重要だからだ。もしJGBがその時サイクルの新高値をつけていけば、トレーダーはショートするサインに注目すべきである。

7. Tノート（10年もの米国債）及び外国通貨

2月17日はTノートのPC(15~23週)の18週目である。PCボトムは先週の2月9日の119/06でつけた可能性がある。引け値が122/12を上回ればこの見方が支持される。しかし、119/06を下回れば、最後の4~6週のトレーディングサイクルはまだつけていないことを示唆し、そのボトムはPCボトムと合致するだろう。現在、多くのサイクル、及びジオコスミックスがPC、或いは長期サイクルのボトムを示唆している。

過去2回のレポートで次の通り述べた“しかし、一旦この緩和状態が終わると、土星だけが残る。土星は引締めを好む。私は連邦予算は赤字になるので、支出計画は想像以上に爆発的になると思う。この様な環境では財務省証券は僅かに下落する程度ではないだろう。むしろ、財務省証券が急落する可能性がある。私は今後1~2年以内に再び104をつけると思う…木星/海王星のインフレ的力学が2009年からスタートするので、この見方を更に支持している…トレーダーはTBT、及びETFを金利上昇に備えて買いを考慮しても良いだろう。それは現在の状況では良いヘッジになるだろう”。

TBT（ベア2倍米国債価格連動ETF）はこの期間に約36から50まで上昇した。相場が3月6日の金星逆行転換日に向けて続落するのか、或いは反騰するのかは予測困難である。何故ならその時にPCの天井、或いはボトムが形成される可能性があるからだ。しかし、いずれにせよ相場は金星の逆行終了時に向けて反転するだろう。金星は4月16日に順行に転じ、火星とコンジャンクションになり、両者は4月下半にFRBの始原因に対してハードアスペクトを形成する。

私のアドバイスは前回と同様である。即ち、トレーダーはすべての反騰で売りを狙う。もしPCがボトムをつければ、その後のPCの天井に向けての2~5週間の反騰で売りを狙うのが良いだろう。3月6~13日、或いは4月16~27日が天井であれば、売りを狙うのが良いだろう。

週間ストキャスティクスは棒下げしている。またこれはその後の2週間以上の反騰を予期してショートするサインでもある。

外国通貨（ユーロ/ドル、スイスフラン）

今週はユーロのPC(21~34週)の16週目である。ハーフPC(11~17週)のボトムは間もなくつけるはずであり、目標値は1.2686~1.23643である。

現在、相場はこのレベルを下回っており、且つ2月13~17日の変化ゾーンのオープの範囲内で数週間ぶりの安値を形成中である。今週この安値が形成されるとすれば、その安値はこのPCのスタート時の安値(ユーロ1.2328、スイスフラン3月物0.8172)以上を維持することになり、両通貨は第2ハーフPCの天井に向けて爆発的な反騰が起るだろう。しかし、長期サイクルのトレンドが下降であれば、その反騰は修正高に過ぎず、2~5週間であり、その目標値は 1.3645 ± 0.0254 である。もし私の予想通り強気であれば、4月末までに1.5000をテストするだろう。現在の重要な鍵はユーロの引け値が25日移動平均(現在1.3037で、毎日下降)を上回ることである。現在この移動平均は既に多少の強気サインが出現しつつある。それは例えば、日足ストキャスティクスの上昇(強気オシレーターダイバージェンス)、及び先週のスイスフラン先物の安値は2月初めの安値よりも安かった。他方、ユーロは安くはなかったもので、これは異市場間強気ダイバージェンスになる。

前回のレポートで次の通り述べた“1月23日、及び2月3日は特に通貨市場の重要変化日である。また、3月6~13日も重要変化の週である。木星と海王星がコンジャンクション(インフレーション)になり、また米国の金利が低いので、この両市場とも夏までに史上最高値をつける可能性がある”。

スイスフラン3月限の25日移動平均は現在0.8728である。このボトムは引け値がこの移動平均を上回るまでは確認されない。しかし私はこのパターンを好むのでトレーダーはこの両市場のハーフPCがボトムをつけたことを示すサインに注目してロングするのが良いだろう。引け値が各PCのスタート時の安値を下回れば、私の強気見方は否定される。このPCのスタート時の安値はユーロキャッシュが1.2328であり、3月限スイスフランは0.8172である。

8. 貴金属 PCの最後の位相に入る

金相場:金はPC(15~21週)の17週目である。またそれは第3MCの5週目でもある。前回のレポートで次の通り、自問自答した“サイクルの最後の位相では何が起るであろうか?もしトレンドが強気であったならば、このPCの最後の2~5週間で最も厳しい下げになる。このPCの天井は第2位相でつけたダブルトップ(892エリア)であった可能性がある。或いは爆発的な上げを見せる可能性がある。相場は急落する前に更に2~5週間急騰する可能性がある。この反騰の目標値は 952.30 ± 24.90 である”。

太陽中心で水星が今週射手座に入居し、2月19日~3月3日の間滞在する。また3月6日に金星が逆行に転じることに留意する必要がある。何故なら金はしばしばこの日の前後10営業日以内にPCの天井、あるいはボトムをつけるからだ。通常私はボトムを予想する。何故なら既にPCの終盤に位置しており、PCがボトムをつける時間帯になっているからだ。

しかし、この位相ではPCのボトムではなく、この暴騰が更に数日続き、PCの天井をつける可能性もある。この場合はPCの天井形成後急落して、延長されたPCボトム(21週をややオーバー)をつけるだろう。

それでもPCの終盤に位置しており、且つ、目標値は既に達成されつつあるので、トレーダーは天井のサインを注視してショートするのが良いだろう。この天井のシグナルが出るのは、3月初めの可能性があるが、すぐにそのサインが出る可能性もある。

何故なら、約20%のケースでは太陽中心の水星は急騰よりも急落に合致する可能性があるからだ。したがって、3月6日±10営業日にかけて急落すれば、トレーダーは買いを狙うのが良いだろう。

私の見方では間もなく昨年10月以来のもっとも厳しい2~5週間の下げがあると思う。しかし、PCボトム形成後は再び反騰して、本年夏までに史上最高値をつけるだろう。私は投資家はインフレを懸念していると思う。私もその通りであると思う。私は本年夏の終了までに突如インフレになり、それが金の史上最高値と合致するだろう。しかし、この史上最高値をつける前に100ドル以上の下落があると思う。

銀相場：銀の位相は金のサイクルと同様である。即ち現在PCの第3位相に位置しており、銀もこの段階としては珍しい暴騰パターンになっている。前回次の通り述べた“しかし、金、銀のいずれもが12月の高値を上抜けば、銀の天井の目標値は1297±45になる。私は10月末の安値850が111週サイクルのボトムであったと思うので、この上値目標値は実現される可能性が高いと思う”。

さてそれは3月限の先週の高値1372で上抜いた。この5月限銀のPCの天井目標値は1423±131である。現在はこのレンジ内に入っているが、更に上昇の余地がある。しかし、CCIが既に+200を上回ったことに留意する必要がある。この+200は売りのレベルである。現在相場はこのシグナルが発生したときよりも高いが、このCCIは再度+200を上回っていないので、弱気オシレーターダイバージェンスシグナルであった。

これは間もなく天井をつけることを意味しており、その後、昨年10月以来の最も厳しい下げが間もなくスタートすることを意味する。

この反騰は金星が逆行に転じる日(3月6日)まで続く可能性があるが、或いは今直ちに天井をつけて、その下げは3月6日前後10営業日までに終了する可能性もある。相場の方針はこの時間帯に到達した時に決めるのが良いだろう。その間、積極的なトレーダーは、今ショートを狙っても良いだろう。何故なら相場はPCの終盤に位置しているからだ。しかし、これをすべてのトレーダーにレコメンドはしない。何故なら3月6日にかけての相場の続騰を見極めたいからだ。その時点でもショートを勧めるのは積極的なトレーダーに対してのみである。私はPCボトムに向けての2~5週間の下げで買いを狙うのが良いと思っている。

銀の短期重要変化日：次の日付の前後1営業日以内に2.5%以上の相場の反転が予想される。

2月18日 ★★★ 2月24~26日 ★★ 2月27日 ★★ 3月2日 ★★ 3月9~10日 ★★★
3月16~18日 ★★★ 3月30~31日 ★★

9. 穀物

2月17日は7月限コーンのPC(15~21週)の11週目である。これは12月5日の安値325からカウントしている。どうやらこの相場はこのコンビネーションパターンのPCようだ。即ち、3つのMC(各5~7週)と2つのハーフPC(各7~11週)で構成されている。ハーフPCのボトムは2月4日の377であったか、或いは今週形成されるだろう。同時に2月17日は第2MCの5週目であり、その目標値は360±11である。これら両サイクルのボトムは今週つける可能性がある。その場合、トレーダーは325以下にストップロスを入れて、買いに入るのが良いだろう。唯一の問題は(これは大問題)コーンも大豆も“パッツ・コンボ・ダウン”のシグナルが今週出ていることだ。7月限コーンがこれを否定する為には、引け値が403を上回る必要がある。すべてのシグナルが透明になるまでには、今後2週間待つ必要がある。

7月限大豆はPC(15~21週)の11週目である。ここでもPCがコンビネーションパターンになっているようだ。しかし、引け値が948を下回れば、通常の3位相パターンを示唆し、現在相場が第2MCボトムに向けて下落中であることを示し、目標値は899±21になる。相場が1020を上回れば、この見方は否定され、相場は上昇して1225±51まで上昇する可能性を示唆する。それが実現するまでは(1020以上)相場は弱気である。

7月限小麦もPC(15~21週)の11週目である。これもハーフPC(7~11週)のボトムに向けて下落中と見られる。そのボトム目標値は523~592である。現在相場はこのレンジに入っているが、まだボトムをつけたサインは見られない。引け値が25日移動平均(592で下落中)を上回れば、第2ハーフPCが継続中であることを示唆する。もし他の穀物のように“パッツ・コンボ・ダウン”でなかったとすれば、私はサイクルに基づいて今週買いを勧める。PCがボトムをつける時期は今後4~10週間以内であるから、それまで待つのが良いだろう。私は依然として生育期はあまり良くないと思うので、このPCの終了時には買いを狙うのが良いだろう。

10.N Y 原油 24ヶ月サイクルのボトムに接近している

2月は4年サイクルの25ヶ月目である。この相場は従来のように3つの14~20ヶ月サイクルの3位相パターンではない。即ち、2位相パターンであり、20~29ヶ月の長さのハーフサイクルで構成されている。現在はこの時間帯に到達している。4年サイクルの中のハーフサイクルのボトムは今後4ヶ月以内につけるだろう。但し、12月19日に32.40の安値でつけた可能性がある(23ヶ月目)。

私の懸念は5月から7月の間に木星と海王星がコンジャンクションになることである。これは相場が上昇するか、或いは供給が増える可能性があることだ。どうやら後者のように見える。

即ち、原油は依然としてボトム形成中の可能性があるが、相場が32.40を下回れば、更に下落するだろう。しかし、問題はどこまで下がるかである。天王星が魚座に滞在中(2003~2011年)は原油のバブルが発生し(史上最高値)、その後77~93%下落することを意味する。昨年7月11日の高値147.27は究極の安値が10.30~33.87になることを意味する。しかし、それは2010~2012年頃に到来する4年サイクルの終了時になる。したがって、その究極的な安値をつける前に強力な反騰があるだろう。

現在はPC(15~23週)の9週目である。現在32~34前後でトリプルボトム形成中の可能性がある。何故ならハーフPC(8~12週)のボトムが出現中だからだ。

しかし、このボトムをつけるためには相場が32.00を下回る必要がある。その後25日移動平均を上回る必要がある。この移動平均は現在40前後である。それはジオコスミックスの点から見ると実現する可能性がある。何故なら太陽が海王星とコンジャンクションになり、且つ火星が2月12~17日に木星とコンジャンクションになる。

海王星、及び木星は魚座の共同支配星であり、原油を支配するので、この時期に相場が反転する可能性が高い。それでも現在のチャートパターン“ウエッジフォーメーション”は好ましくない(安値が切り下がり、高値も切り下がる)。しばしばこれは最初に急落し、その後、突然上昇に転じることを意味する。

恐らく原油は急落して30.00を下回った後、印象的な反騰を見せるかも知れない。しかし、本当に印象的なことは相場が上昇して50.00を上回ることである。これが実現するか否かは疑問である。何故なら、一旦相場がPCの安値を下回れば、通常サイクルの新高値はつけない。その代わり究極的には相場の反騰が止まれば、そのPCが終了するまで続落する。それでも積極的なトレーダーは32.00以上が維持される限りは買いを狙うのが良いだろう。引け値が50.00を上回れば、本年夏までに65.00~90.00まで上昇する可能性がある。

★MMA Reportは、メリマン氏独自の視点から分析し、情報提供を目的に作成されております。投資の最終判断は御自身の責任で行なうようお願い申し上げます。